

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372300857		
法人名	株式会社 スエトミ		
事業所名	グループホーム ドリームまつばせ		
所在地	熊本県宇城市松橋町松橋1619-1		
自己評価作成日	令和3年2月28日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	令和3年3月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設17年をむかえてスタッフもグループホームのあり方をそれぞれが理解してご利用者と毎日楽しく生活できるようにしている。今年はコロナウイルス感染の影響もあり外へ出かける支援が減ったためそれにかかわる中で生活に力をいれた。また、感染しないように職員も心がけて、感染対策にも力をいれて取り組んだ。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今を大切に 私が私らしくあるために…」を理念の中心に置き、入居者の笑顔を引き出せるよう支援している。食事は入居者の食べたい物を取り入れながらメニューを考え、毎日3食分の食材を購入し、入居者もそれぞれができることを手伝いながら職員が交替で調理し、美味しい家庭的な料理が提供されている。年2回の日帰り旅行も、新型コロナウイルスの感染レベルの状況を見ながら実施したり、ホール内での歩行訓練や各棟でのクリスマス会を充実するなど、コロナ禍で家族に会えない・外出できない入居者が少しでも楽しく過ごせるよう検討・実施している。ホーム長を中心に、和気あいあいと笑顔がたくさん溢れたアットホームなグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	BS法を用いて事業所独自の理念を作りあげた。その理念を玄関に提示し、職員が認識し共有実践につなげている。その人らしい暮らしができるように取り組んでいる。	「今を大切に 私が私らしくあるために・・・」を理念の中心に置き、「その人らしいケア」「寄り添うケア」「環境整備」などの項目を職員で確認し、皆が1日1回は入居者に寄り添う時間を持つようにしている。	理念はケアや業務をする上での判断基準であることを念頭に、理念に沿った実践について職員全員で話し合うことも期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染防止のため地域との交流は自粛中である。	入居者と職員でゴミ・缶拾いの区役に参加したり、敷地内の保育園との交流が行われていた。従来は公民館に映画を見に行ったり、地域の夏祭りに出かけたり、楽器演奏のボランティアが来訪していたが、コロナ禍の今年度は多くの交流事業が中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて入居者の状況や出来事、支援ないようについて活動報告することで認知症への理解を深めている。会議資料については配布になっている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一回実地していたが、コロナ禍においてはホームの活動状況等を知らせるため、資料作成し関係者に配布した。	今年度の運営推進会議は、コロナ禍の影響で10月のみの開催となっている。会議を中止した際は、入居者状況・活動状況の報告、コロナ対策等の資料を委員の自宅に届けて意見を聞いている。	会議を資料配布に代える際には、委員が意見・提案を出しやすい工夫があるとさらに良いと思われる。また、会議開催時には、具体的な課題を議題として検討するなど、より有意義な会議とするための工夫を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールにて宇城市から情報をもらっている。また保険者とはいろいろな情報提供をしている。	市担当者とは、ホーム運営上の質問など気軽に相談したり、提出物は直接持参して話をするなど、協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加、ミーティングでの意見交換等により全スタッフの拘束に対する認識を周知徹底に努め実施している。	身体拘束に関する研修に参加した職員は、資料を配布しミーティングで内容を共有している。危険回避のために4点柵やセンサーマット等を使用する場合は、必要性や解除の時期など随時検討し、家族の了承を得、運営推進会議にも報告している。	スピーチロックについて、抑制とならないような言葉の置き換えや対応の仕方等について、職員間で検討することも期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の内容を職員が把握して、自宅や事業所内で虐待が起こらないように、ニュース等で取り上げられた際はみんなで今どんなことに困っているかの話し合いの場を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症の方への支援として自立支援事業や成年後見制度の理解を図り、必要な場合は市町村に相談するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の時は、ホームの内、外を見て頂き契約書類説明時に不安の内容に質問を受け納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設けている。コロナ禍で家族の来訪が減ったため電話での近況状況や質問意見を聞くようにしている。外での面会を短時間で実施している。	今年度は面会も制限されており、2ヶ月に1回、電話で入居者の状況を報告する他、棟ごとに写真をたくさん載せたホームの新聞を毎月発行し、家族に送付している。例年、クリスマス会と夏祭りには家族を招待して一緒に楽しんでしたが、今年度は自粛しており、利用料の支払いや窓越し面会に来られた際に、意見・要望等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで積極的に意見を求めるとともに日頃から連絡ノートや口頭での報告、連絡、相談を密にするように努めている。	毎月、棟ごとに社長・ホーム長の参加を得てミーティングを行い、連絡事項の他、個々のケアに関することや業務改善等について話し合っている。コロナ禍の今年度は、入居者の下肢筋力の低下を防ぐためホーム内で行うことについて話し合い、マッサージ・リハビリを行うことや、ホール内での歩行訓練など実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善も支給されるようになり日頃の勤務態度等を反映させながら、資格取得の手当等も実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年コロナ禍で法人外の研修には殆ど参加できていない。ホーム内でキャリアのある職員から勤務経験の浅い職員への助言等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年グループホームの連絡会の集まりも殆どなくネットワーク作りは難しかったように感じている。リモートなどを駆使して今後交流が図れるようにしていきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際に入居前のケアマネさんから情報を得たり、またご家族やご本人さんより入居にあたり不安な事や希望等をお聞きし、新しい環境の中で安心して生活できるように、寄り添い支援している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に関しては、ご家族がどのようなことで困惑されていたか、耳を傾けホームでのサービスに対する情報を明確にし家族にも協力して頂けるように伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設以外のサービスとして月2回の往診や月2回の訪問看護、訪問歯科も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理等は職員だけで行わず、入居者さんと一緒に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎日の生活の中で自然な様子を引き出し写真に納めるようにしている。節目でまとめた記録を全員で鑑賞する機会も設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族訪問の際、適切な距離を保ちつつ、スタッフが間に入り日頃の様子や最近のご家族の様子をやり取りして頂くことでお互い安心感を持って頂ける支援している。	最近、入居者の知人に会いたいとの思いを叶えるため職員が同行して知人宅を訪問し、その知人や近所の方と再会し、大変喜ばれた例がある。従来、お墓参りや孫の運動会など、家族の協力を得ての外出支援をしているが、現在は基本的に窓越し面会と電話での関係継続支援となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立されないように交流時間を作り、入居者同士の関係を深めるよ支援している。スタッフは相性を把握するとともに必要に応じて間に入り、より良い関係を構築できるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者様を最後までお世話できるように心がけご家族の相談やご希望に添えるように努めている。退所後でもご家族が面会に来て下さる事もあった。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの暮らし方、本人のこだわり、できることを聞き取り、叶えたいこと、やりたいことの実現のサポートを行っている。	希望や意向を言葉で表現できない方も多く、質問した際の表情やうなづきなどの様子から意向を推察している。手先の器用な方には新聞でゴミ袋を作ってもらったり、麻痺があっても作業したい方にはプラスチック製の器やお盆を拭いてもらうなど、できることを把握し、やりたいことが行えるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時にはこれまでの暮らし方、こだわり、出来ること出来ない事などを把握し、暮らしシートに全職員で記入しまとめている。ここに合った適切なサービスが出来るように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の様子を観察し記録に残し、現状の把握の努めている。定期的のアセスメントを行い、有する能力や課題や生活への思いについての現状把握努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画に関してはその時々の日必要なケアを本人様、ご家族様に意見や要望をお聞きし、チームケアにて作成している。作成後は説明しご家族の思いも聞いている。	入居時から2週間ほど入居者の様子を観察して、全職員に「らしさシート」と「課題分析アセスメント」を記入してもらい、職員それぞれの視点からの気づきをもとにケアプランを作成している。担当が毎月モニタリングを行い、半年ごとに全職員に評価考察を記入してもらい、これらを参考にプラン更新をしている。本人のできることを継続し、できないところを支援し、少しでも笑顔を引き出せるようなプラン作成を心がけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護経過記録に日々の様子や気づきを記録し、スタッフで共有しながら実践やケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍のため、年間の行事は現在安全を考慮して、ご家族にお参加は見合わせホーム内で食事会や室内レクリエーションの形式で入居者様とスタッフで交流と気分転換を図って実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの店(白玉団子)の知人に会いたいと希望があったときは同行支援を行った。保育園児との定期的な行事で交流を図りふれあいを大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急変が見られたら、ご家族へ報告を行い状況に応じて受診につなげている。	本人・家族の了解を得て、現在は全員が協力医をかかりつけ医としており、月2回の往診を受けている。日頃から密に連携が図られており、緊急時・夜間もかかりつけ医に連絡して指示を得て対応している。月2回、訪問看護師による健康観察も受けており、適切な医療支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎月2回の訪問看護で利用者の状況を伝えて助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時環境が変化すると不穏にならない様に定期的にお見舞いに伺い、スタッフ間での報告を行っている。コロナ禍で今は自粛している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルを行われる場合は最後まで看取れるようスタッフ一丸となって支援を行い、ご家族にも喜んで頂きました。	終末期の在り方について、入居時及び重度化した際に本人・家族の意向を確認している。「ターミナルケアにおける指針」を作成しており、ホームでの看取りを希望される場合は、主治医・訪問看護等と連携して看取りを行っている。	ターミナルケアについて、職員全員で「指針」について再確認しておくことも必要と思われる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変を含む緊急時に備え、スタッフは心肺蘇生やAEDの使用方法など定期的な研修を受けており、事故発生時はその場にいるスタッフにて連携を図れるように努めている。AEDも設置した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を実施している。避難訓練、消火器の取り扱いの確認を行い、実際消火器を使った訓練を行った。消防署職員に立ち会って頂き指導を受けている。	年2回、日中・夜間想定で火災避難訓練を実施している。同一敷地内に在る他グループホームも合同で、火元を変えて行っている。消防署の立ち合いもあり、消火器の使い方や入居者の避難確認方法等についてアドバイスを受けている。	運営推進会議を避難訓練と同じ日に実施して、委員に訓練への参加を依頼し意見を得たり、地域との協力体制について意見交換することも期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言動に理解できないことがあっても否定せず寄り添い話を傾聴し安心感を持って頂く。またプライバシーや尊厳を守るため周囲に配慮し不快な思いにならない様に対応している。	トイレ誘導時はドアを閉めて外で見守ったり、居室には必ず声をかけて入室したり、排泄の失敗時には傷つけないように言葉かけに留意するなど、誇りやプライバシーに配慮した対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定出来るように落ち着いた雰囲気を作るように努めている。また自己決定出来ない利用者様に関してはご本人の気持ちを汲み取り家族と相談、希望を出来るだけ反映できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者9名のそれぞれの個性を見極めコミュニケーションを図り日々の生活をして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時などは洋服を選んで頂き希望されるものを着用して頂いている。男性の利用者には髭剃りの身だしなみを支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に利用者の能力に応じて料理や食器洗い、拭き等をして頂いている。食事の形態も全介助、一部介助、自力摂取のため、各テーブルにスタッフが1名ずつ付き誤嚥防止に努めている。	献立は、その日の調理担当職員が入居者の食べたい物を聞きながら、食材を確認して立てている。入居者も、食材を切ったり炒めたり、盛り付けや食器拭きなど、できることを一緒にやっている。職員も、談笑しながら同じテーブルで同じ食事を摂っており、楽しい食事風景がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者に合わせた食事の形態をスタッフ間で共有している。(ミキサー食、きざみ食)また四季に応じて目でも楽しめる献立や彩に工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し声掛けや支援にて実施。口腔ケア用品を活用し(ハミンググッド・舌下ブラシ)衛生保持に努めている。訪問歯科と連携を図っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、パット内汚染が削減できる様、落ち着きがない時や定期的なパット確認、トイレ誘導を行い、おむつやパットの削減に努めている。	日中は、それぞれの排泄パターンに合わせてトイレ誘導している。夜間は、自分でトイレに行く方・時間を見てパット交換する方など、一人ひとりに応じた支援を行っている。こまめな対応で失禁が少なくなった方もおり、排泄の自立支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を多く取り入れ、乳製品を利用し食事で調整し努めている。ミキサー食の方も食べ物に合わせぎざみ食にしてり量を多く摂取出来るように排便等を促すよう努めている。排便がそれでもない場合に下剤を使用するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の気分や体調をくみ取り、入浴の順番や時間帯の配慮を行っている。シャワー浴や足浴など個々の応じた支援を行っている。	入浴は基本的に週3回実施しており、湯船に浸かれない方は足湯やシャワー浴で対応している。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤を使用したり、お風呂で歌を歌ったりお話ししたり、楽しい入浴となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を把握し、体調や状況により自由に休息できるように支援している。ゆっくり安眠できるように見守りを重視している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬の内容を理解しており、処方内容の変更時は職員間で情報の共有を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握し家事作業の手伝いや役割を持つことで、力を発揮し		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の影響中、年間行事の日帰り旅行や家族会等の外出や社会との交流は現在実施していない。入居者の方々のストレス軽減や気分転換のきっかけをホーム内の散歩や日光浴等で出来る範囲での支援を実施している。	コロナ禍においても、情勢を見ながら天草への日帰り旅行を実施している。現在は、地域への買い物も難しく、ホーム敷地内での散歩・日光浴等で気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所時5万円預かり、その都度ご家族に補充して頂いている。少額を自己管理できる方については所持してもらっている。必要物品の購入を希望された時は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	面会に来られることが難しいご家族へは職員が連絡を取り、利用者の日々の様子を報告して理、本人と話せる機会を作るなど繋がりを維持できる支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は日々清潔保持に努めており、ホール内の温度調整や換気はもちろん季節や行事に合わせたディスプレイや彩りを入れ、目で見ても楽しむことができる心地よい空間を心掛けている。	玄関を入ると、お雛様の飾りや生花・ドライフラワーなどが飾られており、優しい雰囲気には、日常や行事の際の沢山の写真・習字の作品などが掲示されている。テーブル・ソファ・テレビなどが配置され、入居者は好きな場所に座ってテレビを見たり談笑したりと、穏やかな暮らしが伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの意思を尊重し、共有空間の中にて他者と一緒に過ごされたり、一人でくつろがれたり自由に好きな時間を過ごす事ができるよう職員は支援し、見守り対応を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が使い慣れたものや大切にされているものを配置しつつ、日々の掃除や定期的なリネン交換などで清潔保持、居心地の良い空間作りを努めている。	居室には、タンス・衣装ケース・テレビなどが置かれ、仏壇が置かれた部屋もあり、それぞれ馴染みの物を持ち込んで居心地よく過ごせるよう工夫している。リネン交換も、出来る方は一緒にシーツを取り外すなど、自分が暮らす部屋として、共に快適な部屋づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレに手すりを設置し、潜在力の向上と共に、動線を広くスペースを取り歩行中の安全性、ホール全体を見渡せる家具の配置を心掛けている。		